二国間交流事業 セミナー報告書

令和5年3月31日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

宮崎大学・医学部

[職・氏名]

教授・渡邊 望

[課題番号]

JPJSBP 220227703

1. 事業名 相手国: インド (振興会対応機関: DST) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 健康と調和のとれた社会実現のための日印基礎医学交流セミナー

(英文) Indo-Japan seminar: Future medical health by transdisciplinary approach

3. 開催期間 2023年2月13日 ~ 2023年2月15日 (3日間)

【延長前】 年 月 日 ~ 年 月 日 (日間)

4. 開催地(都市名)

マンガロール(Mangalore) 日本側参加者はオンライン参加

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

K.S. Hegde Medical Academy, Nitte (Deemed to be University)・Assistant Professor・

Damodhar Gowda K.M.

6. 委託費総額(返還額を除く) 549,161 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	12名	0名
相手国側参加者等	10名	0名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

本セミナーは、「健康と調和のとれた社会実現のための基礎医学研究課題」とし、具体的には、「Nano/micro テクノロジーを利用した再生医療の展望」を中心として、臨床・基礎医学、医療工学、生命科学といった多彩な領域の学術研究発表の場となった。本セミナーでは日本およびインドの臨床医や、バイオテクノロジー、分子生物学、および医療工学分野の研究者や学生らが出席し、各人の研究領域を超えて、Nano-medicine としての再生医療の発展について議論を行った。生体材料の開発といった基礎研究と、再生医療に携わる臨床研究を行っている研究者が一堂に会し、心血管病を専門とする臨床医を交え、それぞれの研究成果を発表し交流できた。若手研究者は異分野の研究者を交えて活発な討論をし、最新の知見や技術の習得の機会が得られた。

本セミナーに関連し、日本とインドの主催者の交流を目的としたレセプションや病院見学会等を企画していたが、コロナ禍等の諸事情により、日本側参加者のインド現地への渡航が見送られ Web 参加となったため、計画していた関連行事は中止した。日本側参加者はインド現地へ渡航せず、レセプションでの個々の交流や現地の温度感等は体感できなかった。しかし、Web での参加ではあったが、事前準備段階において、両国の代表および担当者との緊密なやり取りにより、本セミナーの実施に支障がないと考えられた。結果、当日のセミナーは滞りなく進行し、多様な研究課題に対する発表・討論が活発に行われ、成功裏に閉会した。

- (2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

本セミナーでは、異なる分野(臨床医学、バイオテクノロジー、分子生物学、および医療工学分野)の研究者が一堂に会し、それぞれの研究について発表・議論した。このセミナーにより、新たな研究アプローチや他分野の研究者との共同研究の提案などが生まれた。本学と Nitte 大学との学術・研究レベルでの協力は、これまでも行われていたが、参加した他大学の研究者との会合も実現し、インド国との学術研究のさらなる交流の推進が期待される。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

日本側参加者の発表はインドの研究者へのインスピレーションを刺激し、かつ、インドの将来の学術レベルの向上に影響を与えられたと思われる。さらに、インドの学生や若手研究者の日本への留学や共同研究のさらなる期待をもつことにより、二国間の学術的交流が加速される。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

インド側主催者である Nitte 大学はインド南部における学術の中心的な大学であり、所在地の地域のみならず、インドにおける医学・工学分野等でのトップクラスの学術研究を行っている。これまでも本学と多岐にわたる共同研究プロジェクトを行ってきたが、今後、さらなる共同研究での業績の蓄積により、インド国の社会基盤となる医学・科学・産業分野の発展・向上といった社会貢献への寄与が期待できる。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

日本から参加した若手医師・研究者は、国を発展させようと克己心に富むインドの学生や若手研究者の熱意に触れることで、自らの研究活動に対する意欲が向上したと思われる。とくに、本セミナーでの、インド Nitte 大学の学部生・修士課程大学院生が発表する学生発表セッションは、日本側若手医師や大学院生にとって良い刺激となった。また、本講座所属の大学院生も国際会議での発表という貴重な経験・実績が積めた。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本セミナーを通じて日本ーインド間の研究者・医療人との交流を深めたことにより、研究連携のさらなる充実が期待できる。二国間での学生や若手研究者の相互留学や共同研究など将来に向けた事業の推進を目指す。この一環として、Nitte 大学の修士学生や若手研究者が本学大学院博士課程への入学するための計画が進んでいる。

(7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)